

2022 年度
事業報告書

鎮西学院本部

鎮西学院幼稚園

鎮西学院高等学校

鎮西学院大学

学校法人 鎮西学院

長崎県諫早市西栄田町 1212 番地 1

学 院 本 部

鎮西学院 2022 年度事業報告

建学の精神・鎮西学院の目指す人間像

1881 年（明治 14）鎮西学院は、北アメリカメソジスト監督教会から派遣された宣教師 C. S. ロングによって、長崎市東山手に設立された。生徒 12 名と教師 4 名からスタートした学院は、今や幼稚園・高校・大学までを擁し、卒業生の総数が 1 万 5 千人を超える総合学園に発展した。140 年という長い期間には、原子爆弾による被爆を経験し、また災害にも遭遇した。しかし鎮西学院は常に望みと信仰を棄てず、神への信頼をおく者の強さを発揮して今日に至っている。

少子高齢化や国際化など、今、教育をめぐる環境は時代とともに変化し、私学のあり方もその根本が問い直されている。しかしそのような状況にあっても、創立者 C. S. ロングの教えである Be Christian Gentlemen！（キリスト教精神をもった紳士たれ）という建学の精神は、創立 137 年を迎えた現在でも生きており、クリスチャン・マインドを持った教養人を育むことは、学院の創立意義でもある。将来とも変わることはない鎮西学院にとっての真理である。

川崎升元院長が提唱した「敬天愛人」のスクールモットーは、戦時下の学院を閉校の危機から救った。「敬天愛人」のスクールモットーは、鎮西学院に連なる多くの人々の基本的な生き方の姿勢であるといっても過言ではない。

事業の概要

(1) 2022 年度目標聖句

また、イエスは言われた。「神の国は次のようなものである。人が土に種を蒔いて、夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる。実が熟すと、早速、鎌を入れる。収穫の時が来たからである。」

マルコによる福音書第 4 章 26-29 節（新共同訳）

(2) 事業の概要

【概況】

2022 年度は、鎮西学院全体の 5 ヶ年（2018－2022 年度）の中期計画の最終年度にあたり、理事会のガバナンスとリーダーシップの強化のもと、引き続き、幼稚園、高等学校、大学の各部門の連携と一体感の醸成に努めるとともに、歴史あるミッションスクールとして培ってきた国際交流・地域連携ネットワークを最大限に発揮し、未来の地域社会で、その担い手となる園児・生徒・学生たちの育成を目的とした特色ある教育研究事業を展開してきた。

① With Covid-19 新型コロナウイルス感染症に打ち克つ安全・安心なキャンパスづくり

前年度に引き続き、幼稚園、高等学校、大学、すべての部門で、新型コロナウイルス感染症への対応に教職員を挙げて奔走する1年であった。大学、高等学校、幼稚園とも、学習環境の整備や学事日程の変更等、臨機応変の対応に迫られた。

② 創立 140 周年事業の実施

コロナ禍により延期していた創立 140 周年事業として、記念誌「鎮西が変わる。あなたが変わる。 CHANCE for CHANGE」を発行した。また、学院の卒業生である秋吉利雄氏を題材にした小説「また会う日まで」の著者、池澤夏樹氏と姜尚中学院長との特別記念対談番組を制作し、WEB 動画として公開した。

学校法人鎮西学院【創立 140 周年記念特別対談】姜尚中 × 池澤夏樹

<https://youtu.be/6UlxN0I9MUQ>

③ 認定こども園への移行と新園舎建設

鎮西学院幼稚園の認定こども園への移行と新園舎建設を決定し、国・市の補助金交付が決定された。これに伴い、旧園舎を解体することとなり、新園舎完成まで、仮園舎での幼稚園運営となった。

建設資金として、卒業生の牧平年廣氏のご厚意により、1 億 5 千万円（15 年償還・無利息）を融資頂いた。

旧園舎の解体工事後、地盤改良が必要となったため、園舎建設の工期の延長を余儀なくされ、当初より半年遅れの 2023 年 7 月に新園舎での認定こども園開設へと計画変更となった。これに伴い、国・市の補助金の繰越も承認された。

④ 大学機関別認証評価

日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、「適合」の認定を受けた。評価結果として、「優れた点」「参考意見」「改善を有する点」が公表された。

また、大学のみ通知される参考意見・改善を要する事項が教学から管理・運営面にわたって付され、次期中期計画及び大学・法人部門の事業計画の中で改善することとした。

※ 自己点検評価書 https://www.wesleyan.ac.jp/about/pdf/jiheee_document_2022.pdf

※ 大学機関別認証評価結果 <https://www.wesleyan.ac.jp/about/disclosure.html#a07-04>

⑤ 責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の概況

・責任限定契約

理事及び監事については、私立学校法 第 4 4 条の 2 第 4 項に基づき、学校法人鎮西学院寄附行為 第 5 3 条が準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に定められた損害責任賠償の限定に関し、在任する期間について、契約を締結。

・役員賠償責任保険契約の状況

保険名称：会社役員賠償責任保険

保険期間：2023(令和5).4.1～2024(令和6).4.1

保険期間中総支払限度額：3億円

保険取扱：東京海上日動火災保険株式会社

(3) 鎮西学院 経営改善計画

2017年11月の文部科学省・学校法人運営調査の結果、2018年度から2022年度の5カ年の新たな経営改善計画を策定し(2018年6月理事会決定)、目標達成に向けた進捗管理に取り組むこととなった。

この経営改善計画の最終年度における財務上の数値目標は、次の通りである。

目標①	経営判断指標：現状 D2→ 計画3年目 B0 → 最終年度 A3
目標②	教育活動資金収支額の黒字化とその維持 現状 △189百万円 → 計画3年目以降 黒字化
目標③	受入学生数： 大学の入学者数：計画3年目は定員の90%（126人）以上 計画最終年度95%（133人）以上を確保 大学の在籍学生数：計画3年目は収容定員の80%（464人）以上、 計画最終年度は95%以上（551人）を確保 （系列校からの内部進学率20%以上、高校新卒者100人以上、留学生40人以上） 日本語教育プログラム留学生 2018（H30）以降每学期50人

中期計画の目標達成状況としては、大学・高校・幼稚園における安定的な定員確保により引き続き教育活動資金収支差額が黒字化する結果となったが、経常収支差額の黒字化という目標には届かなかった。経営判断指標としては、「B0」段階となった。

計画期間中は、文部科学省の経営指導の対象となってきたが、上記の目標達成状況を鑑み、「学校法人自らの経営努力により一定の経営改善が図られていることが確認できたことから、今年度をもって経営指導の対象から除外することとします。今後は経営力を一層強化し、継続的・安定的な財務基盤の構築とともに、質の高い教育研究活動が行われることを期待します。」との結果となった（文部科学省「経営改善計画の進捗状況に関する調査結果」R5年3月7日付通知）。

〈事業活動収支計算書〉(単位:百万円)

区 分	金額の内容	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
		実績	実績	実績	実績	実績	実績	見込
経常収入	実 績	1,628	1,677	1,719	1,827	1,894	2,031	2,210
	5ヵ年計画策定時	—	—	1,518	1,713	1,861	1,961	1,931
うち学生生徒等納付金	実 績	849	829	896	994	1,022	1,064	1,261
	5ヵ年計画策定時	—	—	1,164	1,219	1,262	1,262	1,262
うち経常費等補助金	実 績	503	460	534	539	607	659	678
	5ヵ年計画策定時	—	—	514	507	513	513	513
経常支出	実 績	1,868	1,915	1,884	1,954	1,974	2,051	2,230
	5ヵ年計画策定時	—	—	1,838	1,877	1,790	1,790	1,790
うち人件費	実 績	1,018	1,119	985	1,038	1,034	1,039	1,059
	5ヵ年計画策定時	—	—	1,007	1,071	1,005	1,005	1,005
うち教育研究経費	実 績	584	525	584	616	632	684	799
	5ヵ年計画策定時	—	—	561	542	525	525	525
うち管理経費	実 績	259	264	304	290	299	319	367
	5ヵ年計画策定時	—	—	259	256	256	256	256
経常収支差額	実 績	△ 241	△ 238	△ 165	△ 126	△ 80	△ 19	△ 20
	5ヵ年計画策定時	—	—	△ 320	△ 164	71	171	141
うち減価償却額	実 績	134	117	121	128	123	124	147
	5ヵ年計画策定時	—	—	117	109	97	78	78

〈活動区分資金収支計算書〉(単位:百万円)

区 分	金額の内容	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
		実績	実績	実績	実績	実績	実績	見込
教育活動資金収支差額	実 績	△ 160	△ 189	147	14	132	164	97
	5ヵ年計画策定時	—	—	50	94	164	156	199
施設整備等活動資金収支差額	実 績	△ 34	30	△ 81	60	△ 100	△ 453	280
	5ヵ年計画策定時	—	—	△ 456	△ 176	299	△ 26	△ 26
その他の活動資金収支差額	実 績	△ 83	156	36	△ 43	△ 63	278	△ 153
	5ヵ年計画策定時	—	—	503	91	△ 439	△ 115	△ 152
計	実 績	△ 277	△ 3	102	31	△ 31	△ 11	224
	5ヵ年計画策定時	—	—	96	10	25	15	21

〈運用資産・外部負債〉(単位:百万円)

区 分	金額の内容	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
		実績	実績	実績	実績	実績	実績	見込 (最終年度)
運用資産	実 績	877	805	907	827	816	806	790
	5ヵ年計画策定時	—	—	901	911	936	951	972
外部負債	実 績	437	575	629	528	542	858	733
	5ヵ年計画策定時	—	—	1,072	1,162	717	594	432
差 引	実 績	441	229	277	299	274	△ 52	56
	5ヵ年計画策定時	—	—	△ 171	△ 251	219	357	541

〈学生・生徒・園児数〉(単位:人) ※2022(R4)年5月1日現在

区分		人数の内容	経営改善計画期間					
			H29 実績	H30 実績	R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績
大学	入学者	実績	108	110	144	136	166	169
		5ヵ年計画策定時			123	138	143	143
	うち学院内進学	実績	35	38	28	20	41	29
		5ヵ年計画策定時			38	52	58	58
	学部生計	実績	345	349	411	475	548	608
		5ヵ年計画策定時			392	474	532	592
	科目等履修生	実績	62	84	74	114	1	140
		5ヵ年計画策定時			100	100	100	100
高校	入学者	実績	334	300	320	335	323	347
		5ヵ年計画策定時			300	300	300	300
	生徒数	実績	898	898	945	958	947	969
		5ヵ年計画策定時			898	928	912	878
幼稚園	実績	89	82	75	90	79	82	
	5ヵ年計画策定時			75	90	100	100	

鎮西学院幼稚園

キリスト教保育を中心として子ども達を育む

「子ども達を私のところに來させなさい。妨げてはならない。

神の国はこのような者たちのものである。」

マルコによる福音書 10章 14節

～子どもは神様から預かった大切な存在～

キリスト教保育を基本とし、子ども達一人ひとりを大切にした教育を行った。

◎園舎建て替えに伴う、引っ越し、仮園舎生活、保護者向け説明会（2回増）、認定こども園移行書類提出等、様々な例年にない業務を職員一丸となって実行した。

保護者や学院関係者のご理解とご協力に大変感謝している。

教育（保育）の基本方針

幼児における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。学校教育法第22条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。

～教育にあたり重視すること～

○幼児の「主体的な活動」を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする。

○幼児の自発的な活動としての「遊び」は、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であるので、「遊び」を通して次の5領域 ①健康 ②人間関係 ③環境 ④言葉 ⑤表現のねらいが、総合的に達成されるようにする。

○幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにする。

「幼児期の終わりまでに育って欲しい資質・能力」を常に意識した教育活動の展開

「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」（10項目）

①健康な心と身体 ②自立心 ③協同性

④道徳性・規範意識（ルールを守ろうとする意識）の芽生え

⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり、生命尊重

⑧数量・図形・文字等への関心・感覚 ⑨ことばによる伝え合い ⑩豊かな感性と表現

◎8月末に仮園舎（諫早市原口町・日本キリスト教団諫早教会2階）へ引っ越し、園庭がない園舎での生活であったことから、子ども達が体を使った遊びができるよう、また戸外に出て、解放感が得られるよう十分な配慮を行い、特に①、⑦、⑩に影響がでないよう努めた。

（1）教学改革計画

・コロナ禍でも教育活動のねらいが達成できるような計画を意識。

- ・2023年度「幼稚園型認定こども園」へ移行予定のため、2号（3歳以上保育を必要とする園児）、3号認定児（3歳未満児）の保育過程作成。

◎前年度に比べ、感染対策を講じながら、実施した行事も多かった。

（ひかりの会総会、クラス懇談会、人形劇観劇、親子礼拝、ひかりの会主催マジックショー、シャボン玉遊び体験会ほか）

◎認定こども園の移行に関する提出書類作成。3歳未満児の保育の目標及びねらい、また自園調理となる食事・食育に関する計画を作成した。

◆保育内容の充実

- ・キリスト教保育（敬天愛人）の充実

◎計画通りに実施できた。また、保育の中で教会堂を使用させていただくこともあり、子ども達も教会に親しみを感じた様子が伺えた。阪口牧師に礼拝でのお話をさせていただくこともできた。

◎キリスト教保育連盟の保育者研修では、熊本県・こひつじ保育園の犬童れい子先生の講演「子どもを愛する保育」の動画撮影を諫早教会で行い、九州各園へ配信した。当園の教員も全員参加・視聴が出来た。

- ・年間保育計画 → 月案 → 週案

PLAN（計画）DO（実行）CHECK（評価）ACT（改善）

○週案提出 … 第2, 4火曜日 業務記録・運転日報の提出 … 第1, 3火曜日

○協議等の時間確保のため、毎日の終礼（連絡会）を有効に。

○進級時、新旧担任間で、書面だけでなく口頭で引継ぎを行う。

○自己評価を実施。

○短時間勤務の非常勤職員にも共通理解が得られるよう、連絡簿作成。全員が、目を通し細かい伝達不足を避ける。

◎仮園舎生活であることから、例年通りにいかないことも多く、計画・準備に時間を要したが、仮園舎だから出来たこともあった。

◎連絡簿では、確認後、チェックする表を作り、伝達漏れを避けることが出来た。

◆教職員研修の充実

◎研修では、全教員、夏休みを中心に集合・オンライン共に、積極的に参加できた。乳児保育についても複数の教員が受講した。

◎伝達講習も行った。

◆学院全体を意識した活動の展開

◎可能な限り、積極的に実施した。未就園児の親子教室等も学院の敷地を活用し、行った。

◆園長の絵本の読み語り

◎仮園舎へ運んだ絵本数が限られていたことから、図書館より借りてきた絵本や紙芝居を読んだ。子ども達と一緒に、諫早市立図書館へ行くことも新鮮で、よい機会となった。

(2) 園児募集対策と園児数・学納金等計画

(園児数)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
4月(始業時)	76	90	83	79	80
3月(終業時)	85	100	96	96	93

◆在園児保護者への丁寧な対応

◆幼稚園評価から見出した課題を、来年度の改善目標とする

全体的には高評価であったが、ゆっくりコミュニケーションが取れてないと感じるような評価もあったため、出来るだけ、教員が送迎時に積極的に話しかける、電話等で話す機会を増やすなどを心掛ける。また、コロナ禍で中止としたクラス懇談会なども役員会で相談し、工夫して実施する。

◎教育活動・指導について、園だより・クラスだより、ブログ等で“教育内容と育つ力”について説明できるよう意識した。

◎行事についてのお便りにねらいを必ず書き込んだ。

◎仮園舎生活で、不便なこともあり、保護者にもご迷惑をかけたが、評価については好評だったが、送迎がほぼバス利用となったために、教員とのコミュニケーション不足という意見が上がった。

◆園長だより発行

◆園だより・クラスだより・フォトレターを毎月発行

◆預かり保育の充実

◎できる限りの実施に努め、引っ越しの日も預かり保育を実施した。また、台風・大雨などで休園した日も、預かり保育のみ行った日があった。

◆行事の充実と保護者会との連携推進

行事の計画的実践

- ・全ての行事の起案を早めに ～個人の力から組織の力へ～
- 毎月定例役員会を大切に

◎コロナ禍で、マスクの着用や行事の人数制限について、また園舎改築の遅れについて

役員会でも様々な意見が出されたが、丁寧に対応した。

◎1月の役員会 南事務局長、栗原総務課長も出席。園舎改築の遅れを発表し、ご理解いただくようお願いした。

◆未就園児親子遊びのつどい（オープンキャンパスの一環）
～コロナウィルス感染症流行状況で、可能な範囲で実施～

◆ホームページ・SNSによる情報提供、広報活動の充実

◎ホームページ、パンフレット、ポスター、チラシをリニューアルし、QRコードの表示、携帯電話からでも見やすい形式にするなど工夫した。

◆満3歳児受け入れ強化

◎10名の満3歳児を受け入れた。来年度は、定員を超えても受け入れる。

（3）施設等整備計画

◆園舎改築の年

◎本来なら3月完成の予定だったが、地盤の補強などに時間を要し、完成が遅れた。

◆園庭整備の推進

◎園舎改築に伴って、園門の位置を変える、不審者対策としてフェンスを高くするなど現在も整備中。

（4）危機管理

◎園バスでの事故を防ぐため、運転日報へチェック欄を設け、事故防止に努めた。

◎仮園舎は2階となるため、引っ越し後すぐに避難訓練を実施した。

◎園児の飛び出しを防ぐため、出入りするときに音になるようセンサー設置。

（5）コロナウィルス感染症対策

◎日頃から基本的な予防対策に努めた。

◎学級閉鎖 1学級3日間

（6）教職員への配慮（働き方改革）

計画的に、年休を取れるよう努めた。

◎2021年度に引き続き、コロナ関係で教職員の欠勤があり、人で不足になることもあったが全員で協力し乗り切った。

鎮西学院高等学校

2022 年度鎮西学院高等学校事業報告

1. 定員 300 名確保＝最大の目標―「教育の 5 本柱」と「本校の強み」を活かして他校との差別化を進める

◎教育の 5 本柱

- ①幅広くて確かな進路保障
- ②盛んな部活動
- ③グローバル化の推進
- ④ICT 化の推進
- ⑤キリスト教教育

年度	2018	2019	2020	2021	2022
入学生徒数(全校生徒数)	334 (898)	320 (945)	334 (967)	323 (949)	346 (969)

(所感)

- ・ 6 年連続定員超で、全校定員 900 名超を維持―県内 93 公立私立高校で 2 番目の規模
- ・ 奨学生増及び新学科(公務員・GE)の影響で優秀な生徒が増え、周囲の評価は着実に上昇している
- ・ 面倒見の良い学校としての評価が高いが、コロナ禍の影響で退学者・転学者増で課題は残る⇒他校も同様

2. 22 年度の具体的目標及び取組

①幅広くて確かな進路保障―「進路の 3 本柱」の更なる充実と学院大との連携強化

1) 進学

- ・ 国公立大学合格者 30 名以上合格(旧帝大 1 名以上含む)⇒29 名、旧帝大 0 で未達成
- ・ ICU や青山学院・同志社・関西学院・西南学院等キリスト教学校同盟を中心にした有名私大への進学
⇒早稲田、同志社 2、関西学院 2、明治学院 2、東海、甲南、西南学院 4、福大 5 で達成
- ・ グローバルイングリッシュコース生による国際系・英語系の大学・学部への進学
⇒同志社、関西学院、西南学院、桜美林、関西外語、京都外語などに進学で達成、留学生の健闘光る
- ・ 「鎮西学院大学進学促進委員会」中心に内部進学率高める―大学の評価向上必須
⇒内部進学者は 27 名で 30 名の目標には届かず

2) 公務員

- ・ 公務員現役合格者 60 名以上合格(一般職 20 名以上)⇒72 名合格(一般職 30 名)で達成

3) 就職

- ・ 12 年連続の就職率 100%達成と有名企業への就職者の増加⇒達成

②盛んな部活動

- 1) 学校活性化、学校の知名度及びイメージのアップに必要
- 2) 部活動の加入率は 80%超、部活動の学生募集に与える影響は大きい
- 3) 昨年度の高校総体優勝旗 5 本と同等の成績を目指す
- 4) 奨学生(特に A)の全体数は可能な限り減らしていく
 - ・ 高校総体の優勝旗は 3 本も準優勝 3 種目でほぼ達成
 - ・ A 奨学生数は 80→89 と増加(バレー部男子の急増による)

③グローバル化の推進

1) 質の高い留学生の積極的受入れ

- ・22年度は26名でスタート予定、10月に10名程度入学予定
- ・AFSなどからの短期の留学生も積極的に受け入れていく

⇒短期留学生まで含めて39名在籍もコロナによる入国規制で予定通りには進まなかった

2) 海外の高校・訪問団との交流促進—コロナウイルスの状況を見て実施の可否を判断⇒実施できず

3) 海外研修への積極的参加促進—コロナウイルスの状況を見て実施の可否を判断

⇒2G馬場さんがロータリの交換プログラムで米国へ1年間の留学中

4) 海外修学旅行

- ・GEコースに関しては今年度より再開予定

⇒7月にテネシーウエスレヤン大学にて研修実施

- ・それ以外は2022年度入学生から再開予定(2024年3月/今年度は国内)

⇒24年3月にシンガポール・韓国で実施予定

④ICT化の推進

1) 昨年度より全校生徒がタブレット所持、今年度よりICT諸費として¥2,500/月全員徴収

2) 吉川指導監・濱田主任・林原ギガスクールサポーターを中心に環境の改善や、校内研修会などを行い、全教職員が共通意識をもって進めていく

3) 今年度も私学の助成金等あれば、積極的に活用する

- ・教職員・生徒共にICTに慣れ、授業や連絡・アンケートなどで幅広く活用できた

⑤キリスト教教育

1) 日々の礼拝・様々な宗教行事を通じ信仰心を修養、同時に愛校心も涵養していく(=学院の根幹)

2) 科・コース・部活動・進路等において様々である生徒を一つに結びつける役割

3) ミッションスクールらしく品性を大切に容儀とマナーを徹底(高校生らしく・地元で愛される)

- ・チャペルは年間を通してほぼ通常実施

- ・1年生修養会を1泊2日×2班で実施できた

- ・生徒指導対象となるような事例はほとんどなし

- ・生徒の言動や感想文等から、人格育成に大いに役立っているものと推察できる

3. 22年度の重点目標

①予算面

1) 22年度全校生徒よりICT諸費の徴収となり800万円余りの増収

2) 修養会・芸術鑑賞等の実費を全部または一部徴収(受益者負担を増やす)・PTAからの援助受ける

3) A奨学生数削減

4) 原油の高騰に伴う様々な値上げを予想し、SDGsの観点から生徒会に節約などを呼びかけさせる

- ・様々な所で節約を行ったが電気・ガス代の急激な値上げ分を吸収できなかった

②教育面—アウトソーシングの利用積極的に

1) 国公立大学進学コースの学カアップ—スクールTOMAS社と契約しAI教材atama+を導入し、特に数学の強化を図る⇒お互いの連携がうまく取れておらず、期待した成果はまだ出てきていない

- 2) 一般進学コースの基礎学力強化—e-learning 教材「すらら」の放課後学習への活用を試行する
⇒先進校視察を実施した、24年度からの本格導入を目指す
- 3) GE コースの海外研修(アメリカ・中国)の再開及び北九州グローバルゲートウェイの活用模索
⇒TWU 研修に加え、諫早青少年自然の家にて English Camp を実施
- 4) 公務員コースの在り方の再考—部活動生の取り扱い
⇒生徒数減少のため、次年度よりカリキュラムを変更し、部活動生は補習等を公認する予定

③教員関係

- 1) 変形労働時間制(年単位)への移行準備を行う—数名ピックアップしてサンプリングする
⇒サンプリングは不十分であったが23年度より実施
- 2) 若手教員の授業力アップ—FCE エデュケーションと契約し、他県私学と連携し授業改善を行う
⇒1年間4名の若手教員が参加、大いなる成果を上げた

④生徒募集関係

- 1) ブランド力のアップ
 - ・一般進学コースの一般推薦の推薦評定基準のアップ
 - ・一般進学コースの併願試験の合格最低点数のアップ⇒どちらも実施したもののそれでも定員を超える200名以上の生徒が入学
- 2) ホームページのリニューアル—SNS を駆使して広報に勤める
 - ・Facebook での情報の発信
 - ・進路実績の着実な広報
 - ・部活動実績のタイムリーな広報
 - ・Youtube サブチャンネルでの中学生対象の少し柔らかめの情報発信なども増やしていく⇒刷新に成功し、他校からもモデルとして参照されている
- 3) 23年度入試から Web 出願に移行予定⇒移行済み、大きな混乱はなし

⑤その他

- 1) 教職員の疲弊感解消・やる気の涵養・意識改革
 - ・定期試験中の午後に自由度を増す(事務職員は交代で)
 - ・早退免や代休の確実な実施
 - ・積極的な有給休暇の奨励
 - ・月曜日を原則ノ一部活デーに設定・試験中土日の原則練習禁止
 - ・校長面談の実施・会話のキャッチボール増やす
 - ・活躍を認め合い称えあう雰囲気醸成—Weekly Speech, ノンクリスチャン講話, 教員表彰等実施
⇒全て予定通りに実施、他校に比較してもきちんとしてできていると感じる
- 2) 教室不足の解消—プレハブ校舎の設立準備(場所・費用・資金集め等)⇒資金不足により実現できず
- 3) 学校行事は、規模縮小等があったが、生徒の学校生活の充実のために知恵を出し合いほぼ全て実施
⇒そうした思いは生徒・保護者にも届いていたように感じる

鎮西学院大学

学校法人鎮西学院 鎮西学院大学 2022年度事業報告

1. 教学改革の進捗状況

1) 入学定員・収容定員の確保

今年度も全教職員の継続した努力の成果が実り、昨年度よりも入学定員を上回り、さらに収容定員を上回る学生を獲得することができた。中期5か年計画の目標を大きく上回る結果となった。

2) コロナ禍での修学支援への取り組み

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りつつ対面授業を基本としながら、インターネットを介しての遠隔授業と対面授業によるブレンディッドラーニングも並行して実施した。
- 学事行事についても、感染状況を見ながら感染防止対策をきちんと取ることで、徐々にコロナ禍前の状況に近い形で開催することを目指して実施した。
- 引き続き文部科学省のガイドラインに準拠した教室施設の環境保持に努めながら、学生、授業担当教員の健康状態に十分配慮し、遠隔授業と対面授業によるカリキュラム運営を行った。
- 遠隔授業の実施にあたっては、昨年度に引き続き、文部科学省の補助事業により整備した学生用の貸し出しノートPC、タブレット端末の貸与をおこない、専門人材を配置することでG-Suite等の利用方法に関する学生相談はもちろん、教員の遠隔授業の運営上の課題解決に努めた。
- 昨年度と同様、就学支援の一環として、国の助成制度を活用し、新たな修学支援制度が適用されない学生(留学生含む)の学費減免を実施した。また引き続き、留学生に対して、諫早市からの学費減免補助をはじめ、地元ロータリークラブ等、様々な団体・企業から食料品等の支援物資が多く寄せられた。

3) 学生の自己実現に向けたキャリア支援の成果

今春の卒業生の就職率は2021年度よりもさらに上昇し、全学的キャリア支援プログラムの成果が継続して出ている。

【就職・進路実績】

● 就職率

	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
全体	95.6%	93.6%	91.7%	88.6%
社会福祉学科	96.6%	94.7%	100%	94.8%
経済政策学科	92.1%	97.2%	89.7%	89.5%
外国語学科	97.8%	86.9%	85.7%	82.3%

就職者(2022年度) 108人 ※就職希望者 113人／卒業生 121人中

(内訳) 一般企業 73人 福祉関係 20人 公務 7人／県内 64人 県外 44人

- 主な就職先: 長崎県教員(小学校教員補助)、長崎労働局、西海市、長崎県警察、南島原市、長崎県商工会連合会、大村商工会議所、オリックス生命、ネットヨタ長崎、長崎空港ビルディング、ANA福岡空港、羽田空港サービス(株)、医療法人カメラ大村共立病院、医療法人祐里会姉川病院、特定医療法人檜山会中澤病院、社会福祉法人ことの海会 など

【資格取得支援】

- 福祉関係国家資格新卒者合格率 ※カッコ内は全国平均

	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
社会福祉士	65.2% (44.2%)	7.1% (31.1%)	26.7% (29.3%)	50.0% (29.3%)

精神保健福祉士	100% (71.1%)	60.0% (65.6%)	66.7% (64.2%)	100% (62.1%)
W受験	100%	20.0%	66.7%	80.0%

2022年度 社福:15/23 精神:6/6 ダブル:6/6

● 情報処理関連資格(CS検定) 受験者・合格者(人)

	ワープロ2級			表計算2級		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
2019年度 集計	12	3	25.0%	3	1	33.3%
2020年度 集計	41	5	12.2%	2	1	50.0%
2021年度 集計	38	12	31.6%	17	3	17.6%
2022年度 集計	49	11	22.4%	8	3	37.5%

● 英語教育

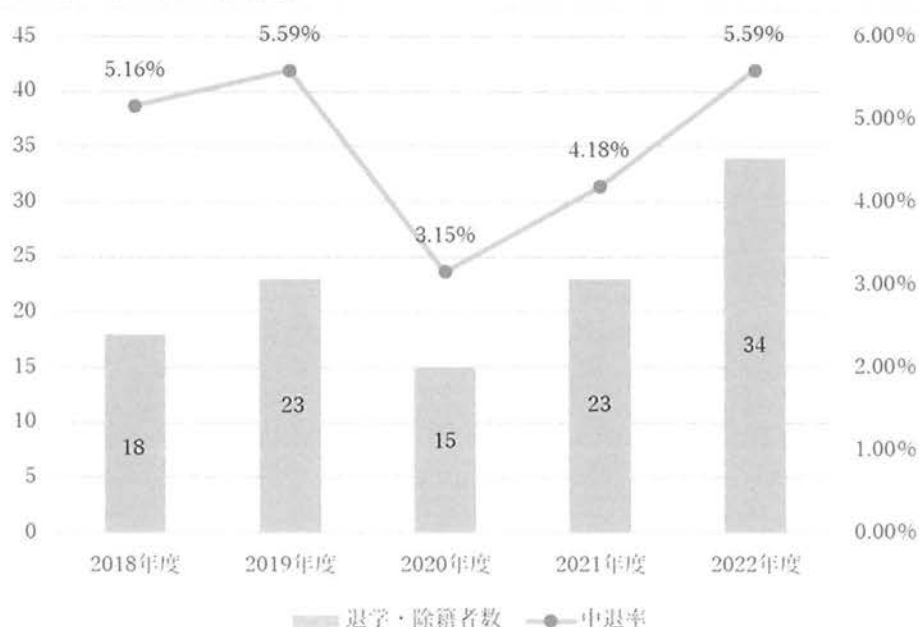
TOEIC

	受験者数(人)	最高スコア(点)
2019年度	42	725
2020年度	69	750
2021年度	64	870
2022年度	53	760

4) 中退予防

中退率 5%以下を目標として、学科を中心にキャンパスソーシャルワーカー、学生支援課、学生委員会との一体的かつ総合的な学生支援体制のもと中退予防に取り組んできたが、当年度は2021年度より少し増加し、退学・除籍による中退率はコロナ禍前の2019年度と同じ比率となった。

【退学・除籍者数と中退率の推移】



5) 留学生の派遣・受け入れ

出入国制限により休学していた留学生が復学するなど、コロナ禍以前の状況に戻りつつあった。日本語教育プログラム科目等履修生についても、入学予定者のほとんどが入国することができ、課程を終了した。

交換留学(派遣)については、8月より本格的に派遣を開始した。派遣先はアメリカ・カナダ・タイ・台湾で、計8名を派遣した。

また、日本語教育プログラム科目等履修生制度から留学生日本語別科への移行について検討を行い、文部科学省へ設置届出を行った。

6) 学部・学科名称変更とカリキュラム改革

学部・学科再編検討専門部会を設置し、学部学科名称変更(2024年度実施)及びカリキュラム再編(2023年度実施)について検討を行った。

7) 大学機関別認証評価受審

自己評価報告書を作成・公表を行うとともに、日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、「適合」の認定を受けた。評価結果として、「優れた点」「参考意見」「改善を有する点」が以下の通り公表されている。

〈優れた点〉

- 教育課程の柱である「コアモジュール学習プログラム」とその中核に位置する「コミュニティサービスラーニング・プログラム」に関して、「基盤教育センター」が中心となって学修成果の点検・評価を通じて抜本的に見直し、改善を図っていることは評価できる。
- 全学SD 研修会については、年 2 回、各 2 日間開催し、障がいのある学生へのケアサポート体制について知識や情報を共有する等工夫し、内容についても充実しており評価できる。

〈参考意見〉

- 近年の入学希望者数の増加に伴い収容定員充足率は改善しているが、定員未充足の社会福祉学科では、入学希望者を増やすためのさまざまな方策が結実することを期待したい。
- 大学が行っている自己点検・評価活動について、これを継続的に実施し、大学運営の改革・改善に資する PDCA サイクルとするための大学組織体制の整理が望まれる。

〈改善を要する点〉

- 「学校法人鎮西学院経営改善計画」や自己点検評価書等の中で、法人運営や自己点検・評価活動の重要なエビデンスとなる数字の正確性又は整合性に欠ける部分が散見されるため、数字の正確性等をチェックできる事務・責任体制整備に向けた改善を要する。

また、上記の事項とは別に、「大学のみで通知する事項」として、基準ごとに以下のような項目が指摘された。

基準	参考意見	改善を要する点
2. 学生	3 件	-
3. 教育課程	2 件	-
4. 教員・職員	2 件	-
5. 経営・管理と財務	3 件	4 件
6. 内部質保証	2 件	1 件

「優れた点」として評価された項目を強みとして更にブラッシュアップを図るとともに、「参考意見」「改善を要する点」として指摘された事項については、教学マネジメント上の解決すべき課題として、また事務部門にあっては、人材養成・組織体制の確立上の課題として位置づけることとした。

※ 自己点検評価書 https://www.wesleyan.ac.jp/about/pdf/jiheee_document_2022.pdf

※ 大学機関別認証評価結果 <https://www.wesleyan.ac.jp/about/disclosure.html#a07-04>

2. 地域連携・産学官連携への取り組み

1) 受託事業一覧

【2022年度 受託事業一覧】

調査・事業名	委託元	金額
まちづくり研究室・生涯学習室の運営	諫早市	—
令和4年度諫早市中学生イングリッシュキャンプ	諫早市	150,000円

2) 包括連携協定市町・機関・企業情報交換会(2月9日開催)

外部評価活動の一環として、ポストコロナの地域・産学連携をテーマに、包括連携協定を締結している市町・機関・企業との会議を開催し、大学の教育研究・地域連携事業への取り組み状況報告、各市町・機関・企業のポストコロナへの対応状況等について情報共有を行った。

3) 九州西部地域大学短期大学連合産学官連携プラットフォーム

引き続き、長崎県・佐賀県の国公立大学・短大、自治体、産業界によるプラットフォーム形成事業に参画し、私立大学改革総合支援事業「タイプ1 特色ある教育の展開」と「タイプ3 地域社会への貢献(プラットフォーム型)」に採択された。本学は、プラットフォーム事業において「地域・産学連携系ワーキング・グループ」責任校として、当該事業に積極的に参画し、大学リカレント教育推進事業を始め、福祉教育フェスティバルの開催等を実施した。

3. 学生募集・広報活動の状況

1) 高大連携関連事業

鎮西学院高等学校との高大連携について、「高大連携講座」に年間を通して取り組むとともに、「テイスティング・ウエスレヤン」(3年生対象)を含む全学年を対象とした連携プログラムを実施、大学教員や学生との交流を図ることで、本学への理解を深めてもらうことができた。

また、福祉教育フェスティバル(福祉体験成果発表、福祉教育セミナー)は前年度と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会場には集結せずに動画配信をおこない、その模様を収録したDVDを配布した。

2) 学生募集活動

【定員充足率の推移】カッコ内は充足率

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
在籍学生数	349 (60.1%)	411 (70.8%)	475 (81.9%)	548 (94.5%)	608 (104.8%)	621 (107.0%)
1年次入学者数 (内訳)	120 (85.7%)	144 (102.8%)	136 (97%)	166 (118.5%)	175 (125%)	166 (118.5%)

社会福祉学科	23 (46%)	38 (76%)	26 (52%)	50 (100%)	53 (106%)	50 (100%)
経済政策学科	42 (84%)	48 (96%)	62 (124%)	62 (124%)	83 (166%)	82 (164%)
外国語学科	55 (137.5%)	58 (145%)	48 (120%)	54 (132.5%)	39 (97.5%)	40 (100%)

※外国語学科は交換留学生を含む

3) 留学生募集

【留学生入学者推移】

	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度
	4月	10月	4月	4月	10月	4月	10月	4月	
1年次	48	15	37	35	1	16	0	17	
うち私費	38	11	32	31	1	13	0	11	
うち交換留学生	10	4	5	4	0	3	0	6	
3年次	3	7	3	2	0	1	0	0	
うち三年次編入	3	0	3	2	0	1	0	0	
うち短期	0	7	0	0	0	0	0	0	
学部生合計	51	22	40	37	1	17	0	17	
日本語教育プログラム	16	72	114	1	0	138	36	42	
PGMMプログラム	-	12	-	0	0	0	0	0	
留学生合計	67	106	154	38	1	155	36	59	

※2020年度の日本語教育プログラムは、3月以降、ネパールのロックダウンのため学費入金済の学生数を計上。

4. その他の主な教育研究活動

<2022年度累積 GPA 学年別平均>

	年度	1年	2年	3年	4年
平均	2020年	2.52	2.59	2.49	2.72
	2021年	2.44	2.55	2.70	2.59
	2022年	2.44	2.49	2.67	2.71
最高	2020年	3.92	3.89	4	3.95
	2021年	3.76	3.94	4	3.85
	2022年	3.81	3.75	3.91	3.88
最低	2020年	0.35	0.67	0.61	1.1
	2021年	0.35	0.41	0.57	1.12
	2022年	0.42	0.26	0.63	0.59

<学長賞・成績優秀賞>

学長賞・・・卒業時に、4年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積 GPA が 3.50 以上の上位の者、若しくは学期毎に、20 単位以上を修得し、かつ累積 GPA が 4.0 以上の者。

成績優秀賞・・・学期毎に、20 単位以上を修得し、GPA が 3.50 以上の者。

2019年度	1年	2年	3年	4年
前期	15	8	5+1(学)	0
後期	6	8+1(学)	10	3+1(学)
2020年度	1年	2年	3年	4年
前期	15	14	8	0
後期	12	15	6	7
2021年度	1年	2年	3年	4年
前期	13	11+1(学)	14+1(学)	0
後期	15	10	22	8+1(学)
2022年度	1年	2年	3年	4年
前期	10	6	13	2
後期	11	6	10	13+1(学)

<障害学生の在学状況>

	聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
2019年度	0人	1人	11人	12人
2020年度	0人	1人	10人	11人
2021年度	0人	1人	14人	15人
2022年度	0人	2人	13人	15人

<科目等履修生の受入状況>

	前期	後期
2019年度	6人	4人
2020年度	3人	5人
2021年度	4人	4人
2022年度	3人	3人

(English Proficiency、肢体不自由者教育課程論、特別支援教育論、肢体不自由者指導法、病弱者教育課程・指導法、病弱者の理解と支援、肢体不自由の理解と支援、教育実習)

※日本語教育プログラム受講生を除く。

<部活動の主な成績>

クラブ名	大会名	結果
卓球部男子	全九州春季学生卓球選手権大会(熊本)	団体:1部4位
	全日本大学総合卓球選手権大会(愛知)	団体出場
	全九州秋季学生卓球選手権大会(福岡)	団体:1部準優勝 敢闘賞 兼島
	全九州学生新人卓球選手権大会(福岡)	シングルス:兼島、小松ベスト8
	熊本県全日本予選	ダブルス:小松優勝
	オール西日本卓球大会(愛媛)	シングルス:小松 決勝トーナメント進出
	全九州予選卓球大会(熊本)	シングルス:小松2位
	全日本卓球選手権大会(東京)	ダブルス:小松出場
	全九州卓球選手権大会	シングルス:小松出場

卓球部女子	全九州春季学生卓球選手権大会(熊本)	団体:2部優勝 シングルス:山本 12位
	長崎県国体予選会	シングルス:山本 3位
	国体九州ブロック大会卓球競技	山本出場
	全九州秋季学生卓球選手権大会(福岡)	団体:2部優勝 シングルス:山本 9位
	長崎県全日本予選	ダブルス:山本優勝
	全日本総合卓球選手権大会(滋賀)	シングルス:山本出場
	オール西日本卓球大会(愛媛)	シングルス:山本、杉内 決勝トーナメント進出
	全九州予選卓球大会(長崎)	シングルス:山本準優勝
	全日本卓球選手権大会(東京)	ダブルス:山本出場
	大阪国際招待卓球選手権大会	シングルス・ダブルス:山本出場
	全九州卓球選手権大会(熊本)	シングルス:山本 16位
	東京卓球選手権大会	ダブルス:山本出場
男子バレー部	九州大学春季バレーボール男子リーグ(宮崎)	4部 4位(2勝3敗)
	九州大学秋季バレーボール男子チャレンジマッチ(大分)	0勝2敗
	天皇杯全日本バレーボール選手権大会(長崎県)	1回戦敗退
女子バレー部	九州大学春季バレーボール女子チャレンジマッチ(鹿児島)	予選グループ戦 3位 順位決定戦トーナメント 1回戦敗退
	九州大学秋季バレーボール女子チャレンジマッチ(沖縄)	予選グループ戦 1位 順位決定戦トーナメント 1回戦敗退
	皇后杯全日本バレーボール選手権大会(長崎県)出場	2回戦敗退
サッカー部	第45回九州大学サッカートーナメント予選	第1節 鹿児島国際大学 1-6 第2節 第一工科大学 8-0
	第45回九州大学サッカートーナメント本戦(島原)	1回戦 名桜大学 5-3 2回戦 福岡大学 12-0
	第77回国民体育大会 長崎県国体サッカーチーム(成年男子)選出	本川瑠空(経済政策学科2年)
	R5年度長崎県大学サッカー秋季リーグ	優勝 第1節 長崎大学経済学部 7-0 第2節 長崎県立大学 1-1 第3節 長崎国大学 8-2
	第4回九州大学サッカー新人戦(熊本)	1回戦 熊本学園大学 2-2 PK2-4

	第 37 回九州各県大学サッカーリーグ決勝大会(福岡) 12/3~5	準優勝 第一工科大学 6-1 琉球大学 1-0 熊本大学医学部 2-2 PK 6-7
	第 34 回(天皇杯)長崎県サッカー選手権大会大学予選	優勝 1回戦 長崎大学 4-0 決勝戦 長崎総合科学大学 2-1
	ONE KYUSHU U-22 大学サッカーフェスティバル(熊本) 3/22-24	3位/13 チーム
スポーツクライミング	にしけいカップ九州 2022 リード(福岡)	成年の部 2 位
	シーハットカップ 2022(大村)	エキスパートクラス 12 位
	クライマーズチャレンジカップ(大村)	アッパーミドルクラス 12 位
	スポーツクライミングジャパンツアー 2022 ホルダリング第 3 戦(香川)	女子 28 位
	スポーツクライミングジャパンツアー 2022 リード第 3 戦(鳥取)	女子 22 位
	スポーツクライミングジャパンツアー 2022 リード第 5 戦(福岡)	女子 22 位
	スポーツクライミングジャパンツアー 2022 ホルダリング第 5 戦(小倉)	女子 19 位
	第 10 回NFAクライミング選手権(式見)	レギュラークラス 19 位
WJE ウエスレヤン ジャズアンサンブル	・入学式演奏(4/1)	
	・佐世保 JAZZ 海辺のコンサート(4/24・11/27)	
	・アイランド長崎にて演奏(4/30・6/4)	
	・森と泉のコンサート(6/12)	
	・OMURA キッズブラス楽器体験&説明会(6/26)	
	・よかもん LIVE!(7/16)	
	・オープンキャンパス(7/23・8/7・8/20・3/18)	
	・ステーションフェスティバル(7/30・9/25)	
	・平和祈念式典(8/9)	
	・ロータリーアクトクラブ公式訪問例会(9/16)	
	・西九州新幹線開通セレモニー(新大村駅/諫早駅) (9/23)	
	・2ドル祭演奏(10/29)	
	・おおむらグルメフェア(11/13)	
	・大学点灯式(12/1)	
	・南串山うまかもんまつり(12/11)	
	・いさはやクリスマスマーケット(12/17)	
	・長崎県アンサンブルコンテスト(12/25)	銀賞
・たらみ市ファイナル(1/22)		
・長崎県警察音楽隊定期演奏会(2/12)		
・大村ジャズフェス(2/19)		

コーラス隊	・ピースアワーでの発表会(11/29・30)	
アコースティック サークル	・ピースアワーでの発表会(7/13・11/29・30)	
ぶっく倶楽部	・チームビブリオ(5/26)	
	・諫早としょかんフェスティバル(7/4)	
	・水曜おはなし会(8/17・9/21)[市立諫早図書館]	
	・全国大学ビブリオバトル予選会①(8/25)	
	・全国大学ビブリオバトル予選会②(9/28)	
	・長崎県中学生ビブリオバトル大会予選会 運営補助(10/2) [大村ミライ on/県主催]	
	・全国大学ビブリオバトル予選会③(10/13)	
	・全国大学ビブリオバトル予選会④A・B(11/10)	
	・全国大学ビブリオバトル地区決戦(11/20) 九州 A ブロック	チャンプ本獲得:末吉翔和
	・3校合同 読書に関する学習会(11/28) 諫早特別支援学校・佐世保特別支援学校	
	・長崎県中学生ビブリオバトル大会本戦 運営補助(10/3) [大村ミライ on/県主催]	
	・冬のおはなし会(12/10)[市立諫早図書館]	
	・全国大学ビブリオバトルファイナルステージ(12/24) [明海大学/千葉県]	準決勝敗退:末吉翔和
・放課後子ども教室(2/4)[シーハット大村]		

<学術研究>

個人研究費の配分状況

2022年度の個人研究費については、財務逼迫の折、昨年同様150千円の配分となった。

科学研究費助成事業の獲得状況

「2022年度科学研究費助成事業」の継続課題は、科学研究費助成金2件と学術研究助成基金助成金2件。「2023年度科学研究費助成事業」への申請件数は7件、採択は1件であった。2022年度より、地域総合研究所共同研究応募者には科研費事業への応募を必須化したため、応募件数は微増した。

以上